

事実だけが述べられている文の記号を
答えましょう。

六年生の良太くんは、お父さんと犬が大好きな男の子です。でも一年生のとき、うっかり誤解してこんな作文を書いたことがあるそうです。

①犬はとても可愛い生き物だ。
②いぢぢ、ものすごくおそろしいことがあった。
③お父さんと公園で遊んだとき、ぼくの背丈ほどもある大きな犬がこっちを向いて走り出してきたのだ。

④「ぼくにかみつこうとしているに違いなし」

⑤ぼくは泣きながら逃げた。

⑥犬はワフと大きな声をあげながら、ぶるんぶるん、しっぽをぶってぼくにとびかかってきた。

⑦ぼくはお父さんに助けを求めた。

⑧お父さんは「大丈夫だよ」と笑っばかりでぼくを助けてくれなかった。

⑨……こんなにもつめたい親だったなんて！

⑩ぼくは滑り台の上まで走って逃げた。

⑪あのままじっとしていたら、ぼくはかみつかれたにちがいない。

⑫もうお父さんとは二度と公園に行きたくない。

「今となっては、こんな作文を書いたことがとても恥ずかしいです」と良太くんは笑って話していました。

答え